

優秀賞

小さな一歩だけど・・・

新渡戸文化中学校 2年 山藤 希葉

私の一歩は、去年の4月、校外学習の一環として東京都檜原村に行ったときに始まりました。檜原村での移動中、ポッカーと穴のように木が切り取られているところを見つけました。当時私は、森林伐採についてほとんど知りませんでした。興味が湧いた私は、帰宅後いろいろと調べてみました。

5月、授業の一環であるラボ活動の一つになんと森林伐採などに関連するラボがありました。このタイミングに何かチャンスを感じた私は、そのラボに加入しました。

12月、ラボ活動の中で「FSC 認証」というものを知りました。実際に探してみるとお菓子や紙ジュースなど、私たちが普段よく購入するものにもFSC 認証マークを多く見つけることが出来ました。私も森林伐採の削減にわずかでも貢献していたなんて！私はとても嬉しくなりました。

3月、FSC 認証マーク普及を目指すアイデアコンテストに、ラボのメンバーで応募してみることにしました。もし優勝したら自分たちのアイデアを実現できるというものです。私たちは、「馴染み深いもの」「誰もが使用するもの」という点に絞って考え始め、「折り紙を通じてFSC 認証マークを知ってもらおう」という案に辿り着きました。FSC 認証のされた折り紙で、森林伐採の影響で絶滅の危機にある動物たちを折ることが出来る、という折り紙キットです。さらに折り紙の裏には、折る動物やFSC 認証についての説明を載せ、折りながら学ぶことができるように考えてみました。そして、約100校のエントリーから見事10校にまで選出され、二次審査に進めることになったのです。

4月、プレゼンに挑戦した二次審査の結果は、落選でした。とても悔しかったけれど、もし今行動をやめてしまってもSDGs 達成への一歩にはならない！と考えた私たちは、自分たちの案を自分たちの手で実現するために動き始めました。まずはアイデアに賛同してくれそうな企業にプレゼンしに行くことから始まりました。最初は断られたりもしたけれど、聞いてくれて、協力してくれる企業も出てきました。森林破壊についてもっと深く知るための学びも並行して続けました。そしてそれはいつの間にか一つのプロジェクトとなりました。

そして現在。私たちは、折り紙の製品化に向け行動を続け、地域の環境フェアに参加してみたりしています。興味から始まった私の小さな一歩が、今ではプロジェクトとなり、折り紙を通してひょっとしたら次の人の一歩になろうとしています。折り紙を手にとってくれた人がSDGs 達成に向けてのまた小さな一歩を踏み、そのみなさんの一歩が集まって、いつの間にか日本だけでなく世界的に大きな一歩になっていますように。